

平成 18 年度 受賞者

高円宮殿下記念地域伝統芸能賞

青森ねぶた祭実行委員会・弘前ねぶた保存会（青森県青森市・青森県弘前市）

地域伝統芸能大賞 保存継承賞（第 1 類）：地域伝統芸能の実演に係わる団体又は個人

盛岡さんさ踊り実行委員会（岩手県盛岡市）

地域伝統芸能大賞 活用賞（第 2 類）：地域伝統芸能を活用した行事の実施主体

沖縄全島エイサーまつり実行委員会（沖縄県沖縄市）

地域伝統芸能大賞 支援賞（第 3 類）：衣装、用具等の製作、人材等の確保に係わる団体又は個人

該当者なし

地域伝統芸能大賞 地域振興賞（第 4 類）：その他特に顕著な貢献のあったもの

YOSAKOI ソーラン祭り組織委員会（北海道札幌市）

地域伝統芸能奨励賞

寺島絵 里佳（北海道函館市）

受賞者 プロフィール

高円宮殿下記念地域伝統芸能賞

青森ねぶた祭実行委員会・弘前ねぶた保存会（青森県青森市・青森県弘前市）



「ねぶた」とは七夕の灯籠流しが変化して伝わったものといわれているが、定かではなく、「ねぶた」あるいは「ねぶ流し」とも呼ばれて青森県一帯にこのまつりが行われている。わけても「青森のねぶた」と「弘前のねぶた」が盛んで、昭和 55 年にはともに国の重要無形民俗文化財に指定された。

「青森ねぶた祭り実行委員会」及び「弘前ねぶた保存会」は、それぞれ特色を異にしたまつりの保存、継承に努めるとともに、今や合わせて約 480 万人を集客する全国的に著名なまつりに成長させ、青森県の観光各誘致に多大な貢献をしている。

地域伝統芸能大賞 保存継承賞（第 1 類）：地域伝統芸能の実演に係わる団体又は個人

盛岡さんさ踊り実行委員会（岩手県盛岡市）



さんさ踊りは盛岡市を中心に岩手県各地で踊られている盆踊り。地域の活性化と観光振興を計るため、統一した振り付けで昭和 53 年から「盛岡さんさ踊り」としてスタート、太鼓や花笠を用いた激しく、華やかな 3 万人超の群舞は東北を代表する盆踊りとなり、期間中の人出は約 80 万人に及ぶ。

この間、盛岡市内の官民で組織する「盛岡さんさ踊り実行委員会」は、同踊りの形・体裁を整え、その保存に尽力し、現在に至っている。

地域伝統芸能大賞 活用賞（第 2 類）：地域伝統芸能を活用した行事の実施主体

沖縄全島エイサーまつり実行委員会（沖縄県沖縄市）



旧盆に先祖の霊を供養する囃子言葉であるエイサーは、念仏踊りとして太鼓を用い、沖縄各地で行われている。昭和 31 年、新しい沖縄を目指し、若者の命を示すべく、沖縄市（旧コザ市）でコンクール形式のエイサー大会がスタート、既に 50 回に至り、県内各地のエイサーが鑑賞できる夏の一大イベントとなった。「沖縄全島エイサーまつり実行委員会」は大会当初から運営面の中心となり、一方ではエイサー団体の県外派遣助成、県外への PR 等を活性化、今では県外での集団も増加、「日本全体のエイサー」への道を歩みつつある。

地域伝統芸能大賞 支援賞（第 3 類）：衣装、用具等の製作、人材等の確保に係わる団体又は個人

該当者なし

YOSAKOIソーラン祭り組織委員会（北海道札幌市）

高知よさこい祭りで演じられるよさこい鳴子踊りが若者に人気があったことから、踊りに使用する鳴子と北海道民謡ソーラン節を結びつけ、これをロック調で唄い踊るのが「YOSAKOIソーラン」である。

1992年若者に新しい祭りを興そうと、当時北大生の長谷川岳氏を中心に学生による実行委員会がスタートした。以来祭りの成長に伴い、3度の組織変更を経て、現在毎年期間中約200万超の観光客を集める「YOSAKOIソーラン祭り組織委員会」に成長、札幌市の観光振興に貢献している。

日本にある伝統を踏まえた創作民俗舞踊ではあるが、若者からお年寄りまで全国300を超えるチームは今後増える傾向も窺え、既存の伝統芸能に与える影響も多い。

地域伝統芸能奨励賞

寺島絵 里佳（北海道函館市）

寺島絵里佳氏は幼少より江差追分を始めとする民謡に親しみ、日本で難関の1つ江差追分の全国大会では14歳で少年の部に優勝、20歳第41回大会で、みごと栄冠を手にした。全国大会歴代優勝者の中でも数少ない若手の一人。

現在江差追分会に所属し、江差追分の指導者となるべくその研修に積極的に参加、今後の活躍が大いに期待される。

北海道在住で、2人の妹とともに「民謡三重奏コンサート」も開催、マスコミにも取り上げられ、江差追分を核とする地域発信にも寄与している。